

○ニーズ調査票【案】についていただいた御提案

第1回桑名市子ども・子育て会議終了後、委員の皆さんにご提出いただいた提案内容

【①全般的な意見】

No.1 稲垣 陽子委員

郵送のコストと回収率を見て、小学校の分はランダムでいいので学校に配布をお願いした方がいいのではと思いました。

その方が、郵送では送ってこないだろう方々の声も拾えて、より現実的ですし、配布する数をコントロールすれば解析の際のコストもある程度読むことができるのでは、と思いました。

【事務局 考え方】

○関係機関との調整を行った上で、小学校からの配布ができるように努めてまいります。

No.2 加藤 隆明委員

まず桑名市の幼稚園再編計画が本質を忘れ作成されている中の「子ども子育て会議」が開催されたことに疑問を感じます。

認定こども園についての記述が多々記載されていますが市民の対し十分に理解されているのか、地域説明会における私立園の立場について、どのように説明されているのか不透明な部分がありすぎである。また今回の子ども・子育て会議の本質を第1回から私を含め全員が理解し、よりよい子供たちの環境づくりを望める状況を設定しているのか非常に疑問に思う。この会議は行政主導の根拠作りに使われているようにしか考えられない。

なぜならコンサルが作る日程、資料に行政が疑問を抱かない体制から感じる。まずは、今会議が正常な機能を果たす会議か教えていただきたい。

【事務局 考え方】

○認定こども園については、今回ニーズ調査票の送付にあわせて、本市の子育て支援事業に関する案内文書の中でもご紹介しているところです。なお、国で示す調査の方針では、現在本市にない認定こども園なども選択肢のひとつとして、調査対象者の利用希望を把握することとしております。このため、全国統一的に、この方針に従って調査を実施するものです。

○資料は、国の提示している内容を参考にしながら、本市の特性に応じて事務局が作成しており、コンサルティング業者には、あくまでも補助的な業務や今後実施するニーズ調査の発送及び集計、分析等をお願いしています。

No.3 下間 賢了委員

子ども・子育て支援の意義に関する事項の筆頭に、「子どもの最善の利益」が実現される社会を目指すとの考えを基本とするとある。

この言葉を受ければ、子どもにとって何が大切か、自分の意思を発言できない子どもたちの代わりに、良識ある大人が子ども目線に沿って「子ども・子育て」を考えていくことが大

切ではないか。

乳幼児は言葉を持たず、ほとんど親の都合によって決められていく。生後間もなく預けられる子、長時間保育で11時間も保育園に預けられる子にとって、それが最善の利益と云えますか。

しかしながら国の施策にしても「子ども」の後に来る「子育て支援」が先行しているのが現状である。国のペースに巻き込まれず桑名市として真剣に桑名市の「子どもの最善の利益」を考えていくことが会議に課せられた重要な課題ではありませんか。

認定こども園について

都市部の保育園不足により待機児童が増えたため、空いてきている幼稚園に保育機能を備えて乳幼児を受入れられるよう考えられたのが認定こども園である。本来はこの委員会で検討討議されるはずの認定こども園に関しても、すでに実施計画が市中に出回っており何のための会議なのか理解できない。

待機児童0と報告されている桑名市に於いては今のところその必要性はないと考えられる。量的には現行の公私立の保育園幼稚園で充分足りているので、桑名市にとっては質を高める議論の方が子ども子育てのためになると思う。

誤解されやすいので一言

元来、保育園は保育だけでなく教育に関しても0歳児より行って来ているので、今さら保育園に教育を加えるという考え方はおかしい。保育園は認定こども園に移行しなくても十分その機能を果たしていることを認識してもらいたい。

保育所・幼稚園の運営費用について

財政難の桑名市にとって官から民への移行について、他市より随分後れを取っておりますのでこれを機会に考えていかねばならない問題だと思います。

保育料について保護者負担は源泉にて区分され入所にあたり公立保育所・私立保育園を選んでも保護者負担に変わりはありません。しかしそこにかかる経費について私立に比べて公立は莫大な費用が余分にかかっております。すべて市の持ちだしです。私たちの税金です。官から民への移行すなわち公立保育所幼稚園の統廃合規模の縮小により捻出された費用を、保育料すなわち保護者負担の軽減・保育の質の向上・処遇の改善などに有効活用されることを税金を払う市民として考えてみませんか。

【事務局 考え方】

- 「子どもの視点」は、子ども・子育て支援新制度においても最も重視しなければならない大切な視点であると認識しております。今回の計画策定にあたっては、次世代育成支援行動計画から引き続き、子どもの視点を重視して進めていきたいと考えております。
- 今回のニーズ調査において、待機児童等の潜在的なニーズを把握するとともに、教育・保育に関する質的なニーズを把握して、施策に活かしていきたいと考えております。（教育・保育に関する質的なニーズを把握するために、就学前 新Q21、Q22を追加。）
- 子どもの視点を忘れないよう、市民と民間、行政の協働を重視し、本市における教育・保育環境を整えていくよう努めます。

No.4 津田 浩二委員

(1) 子ども・子育て支援法は「一人一人の子どもが健やかに成長することができる社会の実現」を目的としている。そして子ども・子育て支援については、その目的の達成のため「子どもの最善の利益」が実現される社会をめざすとの考えを基本に、「子どもの視点」に立ち、子どもの生存と発達が保障されるよう、良質かつ適切な内容および水準にすることが必要であるとしている。提示のニーズ調査は、「大人の最善の利益」・「大人の視点」に偏りすぎている。保護者をはじめとする大人の利益も重要ではあるが、何より大切にすべきことは「子どもの健やかな成長」である。そのことをこの会議の共通理解としたい。

(2) 「子育て＝負担」を前提にした質問が多い。課題を見つけその解決に取り組む姿勢は大切であるが、回答者が子育てに関してマイナスのことばかり考えるニーズ調査は避けたい。子どもを産み育てることへの喜びを再確認できるような質問を可能な限り多く採用していただきたい。

(3) 今回の制度改革では、「満3歳未満の子どもを持つ、保育を利用せず家庭で子育てを行う家庭」への財政的な支援が他の家庭状況のそれと比べ明らかに少ない。桑名市独自の支援をこの会議で検討する上で、その層への丁寧なニーズ調査をお願いしたい。

【事務局 考え方】

- 「子どもの視点」は、子ども・子育て支援新制度においても最も重視しなければならない大切な視点であると認識しております。今回の計画策定にあたっては、次世代育成支援行動計画から引き続き、子どもの視点を重視して進めていきたいと考えております。(再掲)
- 国が最低限求めているニーズに係る項目以外の部分では、「子どもを産み育てることへの喜びを再確認できるよう」な問いかけになるよう委員皆様のグループワークを通じたご意見を踏まえ検討していきます。
- 「満3歳未満の子どもを持つ、保育を利用せず家庭で子育てを行う家庭」のニーズについては、調査結果に対し適切なクロス集計を行い、その詳細な把握に努めます。

No.5 中谷 直子委員

協力のお願ひの中で子育てに関する制度についてももう少し時系列をいれて説明をいれていただくと、わかりやすくなるのではないのでしょうか。制度を熟知している行政の方が読まれるのと、まったく知らない方が読まれるのとは全然受け取れるものが違います。「子ども・子育て支援法」に基づく…といきなり書かれてもかなりハードルが高いと感じます。

次世代育成支援行動計画から継続していく取り組みや、新たな取り組みが始まっていくと思うのですが、平成20年度に実施したニーズ調査及びそれ以降の取り組み等でこんな実績がある、このように声がかされてきたといった報告が簡単にわかるような記述（例えば図や挿絵等もいれながら。）があると、今回の調査記入への気持ちもアップするのではないかと、思います。

ニーズ調査といえども記入していくうちに気持ちがダウンしていくようなもの問題ばかり課題ばかり強調されていくものというよりは希望がもてる自分自身もこんな部分を親としてやってみようかな…といった自分自身の一歩につながるようなものになるといいと思っています。

* 就学前児童・小学生の両方にある同じ設問は同じように修正ができればと思いますが、あ

くまでも提案ですので参考にさせていただければ幸いです。

- * 全体的に否定的な設問が多いのが気になりました。悩みがある、問題がある、ということが前提になっている部分が少なくないように思います。「どのような力を親として育ていきたいと願っているのか」「どのような体験をさせたいのか」そういった親としてできることを意識付けできるような設問も必要かなと思います。
- * 一人親家庭のニーズをすいあげる設問は別に考えておられるのでしょうか。この子ども・子育て支援には当然一人親家庭も同じ対象の中にあると私は認識しているのですが違うのでしょうか。別の制度で補われていくものとしても、この制度の中で重なる部分は当然あるのですから、設問に意識して盛り込んでいくことも必要かと思いました。

【事務局 考え方】

- 調査票表紙の裏面の説明書きを、国から示された画一的なものではなく、本市における背景を踏まえ、市民と行政の協働による計画策定を進めていくことに関するお願いの文章に変更します。
- できる限り、気持ちを向上させるような問いかけになるとよう委員皆様のグループワークを通したご意見を踏まえ検討していきます。
- 教育・保育の内容に期待することなどの設問を新たに加えます。(就学前 新Q21、Q22を追加。)
- 一人親家庭のニーズについては、ヒアリング調査を実施し、生の声を聴取します。

No.6 濱内 洋孝委員

- ・(意見・感想) 国を基本とし、市独自の視点での設問数も多い、内容が複雑化すると回収率が下がる。回収率を上げるためにも市民に向けての事前制度の周知を、わかりやすく事前に市民に対し広報してほしい。
- ・(意見・感想) 市独自調査の回答項目において、「○をいくつでも」が、回答の全部が○をつけたいようなものであり、本当に必要なニーズがぼやけてしまわないか。
- ・(意見・感想) 虐待をしてしまっている家庭、SOSを発する余裕が無い家庭、外国籍、など、さまざまな環境の家庭からの意見をくみ取る工夫は考えられているのか。
- ・(提案: 調査票全般事項) ニーズ調査表のQの横にある<国・必須>、<国・任意>、<市・独自>などの表記は答える側の保護者にとっては必要性がなく、混乱を招かないか。子育て会議の資料、集計時の結果としてはわかりやすいが、保護者に配布する調査票としてはあくまでQだけでよいのではないか。
- ・(提案: 既存制度のPR) ニーズ調査の就学前児童への全戸配布をチャンスとして、現在実施中の市の子育て施策の一覧できるパンフ、すくすく便りなど資料、虐待防止都市宣言のリーフレットを同封して周知したらどうか。
メリット① 桑名市の子育て支援を紙ベースで知ってもらえる。
メリット② それに対しての意見を保護者も出しやすくニーズが図りやすい。
- ・(提案: 回収率の向上策) 調査票を、各戸へ送付する前段階として、制度の周知、意義などを市民への情報の提供を「自治会の回覧板、小学校の学校通信、保育所、幼稚園等からの園便り、支援センターすくすく便り」などの既存の紙ベースの情報網を利用し、ニーズ調査開始の前段階として、アンケート回収協力への依頼を呼び掛けておいてはどうか。

※PTA、幼保の保護者会、子ども会、自治会を通じた呼びかけはコストも不要

- ・(提案：回収率の向上策) 調査票の送付、回収を郵便による郵送、返送だけではなく、公立、私立の協力のもと就園時に対しては施設からの配布、未就園児に対してのみ郵送としてはどうか(郵送による経費の削減が図れる) また、回収においても保育所、幼稚園での呼びかけ、回収も出来るようにした方が回収率の向上が見込まれる。
赤ちゃん訪問、子育て支援センターでの利用者に職員からの協力の呼びかけもする。
※郵送は、就園、未就園の振り分けが事務処理上、困難、煩雑な場合は「回収」時にのみ保育所、幼稚園、支援センター等での提出も可能にしてはどうか。

【事務局 考え方】

- ニーズ調査の実施にあたっては、桑名市広報(11月1日号)、桑名市ホームページ(随時)、子育て情報メールマガジン(随時)、すくすくだより(10月号)を通じた周知を予定しています。ニーズ調査の趣旨についても、ご理解頂けるように工夫してまいります。
これと合わせて、各所に協力を要請し、小学校、保育所、幼稚園、支援センター、乳児全戸訪問、又は10月中に開催するイベント・講座等を通じて、アンケート協力の依頼文書の配布を行います。
- 複数回答については、確かにご指摘のとおりのところもありますが、過去の調査で有効であった設問の継続であり、経年変化から課題等が浮かび上がるように考えて設計したものです。
- 今回の調査でくみ取りにくい部分のニーズについては、ヒアリング調査により、できるだけ丁寧にくみ取っていきたいと考えております。
- 調査票の設問のそこにある〈国・必須〉等の表記は、本会議のためのものであり、実際の調査票には表記されません。
- 本市の子育て支援事業に関する簡単な説明書きを同封します(資料1-4参照)。

No.7 水谷 秀史委員

- (1) 自己肯定感を持って育まれることが重要と、うたっておきながら、その部分の質問が希薄。文部科学省の相原康人氏(文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官<併任>内閣府参事官「少子化対策担当」付参事官補佐)にも面会時、申し上げたところだが、ニーズ調査自体が、全面的に就労支援前提の体を成している。「愛情を持って育てる」には、という課題が挙げられていない。その修正として以下の ②個別意見 を提案するもの。
- (2) 見込まれる回収率は?
- (3) 文中、幼稚園、保育園、認定こども園という言葉が頻出するが、市民に十二分にその違い等が理解されているという前提か。
- (4) 今回のニーズ調査について、もっとも間違っただけではない所は、そもそもこの施策が打ち出されたのは、都市部の待機児童解消の為だということ。
国の策に何の解釈も施さないままに、桑名に取り入れようとする無策だけはしたくない。なぜなら、この地域は待機児童ゼロだから。桑名市では就労支援を、今、このような形で展開しなくてもよい環境です。ゆっくりと教育を考える時間が与えられているにも関わらず、国の施策の名を借りて、必要でもない策を練ろうとするのは、陰謀か無知の、いずれかと思える。

そのためには、桑名独自の調査項目には、教育する、子どもを育てる、大きくする、生きる力を育てる等の文言が出てきてしかるべき。それを、さらに就労支援の言葉で上書きしようとするのは、思慮が足りない。

- (5) 認定こども園などの施設を作ることで、この先数十年、それを維持していく必要がある。必要かどうか分からないものに投資して、そのつけを将来の子どもたちに背負わせようとする無謀は避けたい。
- (6) 一体、市民のみなさんが、母親が働くことで子どもが増えると考えているのかどうか、真剣に意見と思いを寄せるべき。その媒体となるのがこの会議の目的と使命。同時に一日に十数時間も施設に預けられている子どもたちが、将来の桑名を担って立つ子どもたちになりうるのか、否か、考える機会を与えねばならない。行動計画を見る限り、次世代育成支援会議ではそんな乱暴な議論の展開がなされたとは思えない。
- (7) ニーズ調査は、幼稚園、保育園や学校に対してこそ、行うべき。桑名市の「特徴」として、それを行うことを提案する。
- (8) 子育てに一段落した人々に対してたずねる項目を作り、別枠でも実施することを提案する。
- (9) ニーズ調査とは「してほしいことを挙げること」ではないことを、対象者に知らせ、あらかじめ理解を得るべき。さもないと、ないものねだりのオンパレードになる。それを、対象者の理解に任せることはせず、説明をしておく責任が実施者にあることを、認識すべし。また、ニーズ調査は、世論をコントロールすることもある、と認識すべし。あいまいな理解を伴う人が、選択肢を提示されて答えを見いだそうとする時、あらたな要求や欲望があらわになることがあることを、認識すべし。だからこそ、バランスが大切。
- (10) 児童と言う表現に乳児、幼児も含まれることの確認と根拠（児童福祉法では満18歳未満の乳児・幼児・少年、学校教育法では6～12歳）。

【事務局 考え方】

- 国が最低限求めているニーズに係る項目以外の部分では、「子どもを産み育てることへの喜びを再確認できるよう」な問いかけとなるよう委員皆様のグループワークを通したご意見を踏まえ検討していきます。（再掲）
- 前回（平成20年度実施）のニーズ調査の回収率は、就学前児童が53.6%、小学生が51.7%でした。今回は、回収率の向上のために、各委員のご意見を踏まえて、広報やホームページ、学校・園等を通じて、アンケート協力の依頼文配布などを行います。きめ細かい調査とするため、調査票の分量が前回より増加しており、回答者にご負担をかけますが、前回からの回収率の引き上げに努めていきます。
- 「子どもの視点」は、子ども・子育て支援新制度においても最も重視しなければならない大切な視点であると認識しております。今回の計画策定にあたっては、次世代育成支援行動計画から引き続き、子どもの視点を重視して進めていきたいと考えております。（再掲）
- 教育・保育の内容に期待することなどの設問を新たに加えます。（就学前 新Q21、Q22を追加。）（再掲）
- 幼稚園、保育園の現場のニーズ等を把握するため、幼稚園教諭、保育士へのヒアリング調査を予定しております。
- 子育てを終えた世代の意見を把握するために、現在策定中の桑名市地域福祉計画の市民会

議における関連意見を整理します。

○調査結果から得られたニーズが、実際のニーズより過大なものにならないよう、現在の利用状況を十分考慮した上で、「量の見込み」の算出をしていきます。あわせて、的確な条件でクロス集計を用いた分析を行います。

○御指摘を踏まえて、「就学前児童保護者用」から「就学前の子どもの保護者用」に修正します。

No.8 渡部 美紀子委員

- ・ 前回の回収率が低かった反省はあったのでしょうか。
- ・ 回収方法として、支援センター、保健センター、市役所などでも回収可能にしてはどうでしょう。
- ・ 小学生保護者用は、回収率を考えたうえで調査対象人数を決めたのでしょうか。回収率が低いと「量の見込み」の算出に影響は無いのでしょうか。

【事務局 考え方】

○前回（平成20年度実施）のニーズ調査の回収率は、就学前児童が53.6%、小学生が51.7%でした。今回は、回収率の向上のために、各委員のご意見を踏まえて、広報やホームページ、学校・園等を通じて、アンケート協力の依頼文配布などを行います。きめ細かい調査とするため、調査票の分量が前回より増加しており、回答者にご負担をかけますが、前回からの回収率の引き上げに努めていきます。（再掲）

○調査票の回収は、同封の専用封筒により、市役所宛て郵送にて返送していただくことが基本ですが、各所に協力を要請し、協力いただける学校・園等については、調査票の受理を学校・園等に依頼します。

○小学生保護者の調査数については、現時点での小学生数が仮に8,000人とした場合、許容できる誤差の範囲を一般的な3%で算出すると、標本として必要な数は約940サンプルとなります。前回の回収率（51.7%）を考慮すると、必要配布数は1,800通程度ですが、若干多めに設定し2,000人抽出としました。

【②個別意見】

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	伊藤 香委員	
1	<p>就学前 Q19 選択肢 4</p> <p>○保育園と認定こども園の違いがわからない人が多いと思う。認定こども園にするメリットを具体的に明記してはどうか。幼稚園終了後延長保育ができる。（夏休み</p>	<p>■幼稚園、保育園、認定こども園の内容と桑名市の子育て支援事業の説明文を同封します。（資料1-4参照）</p>

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	は幼稚園と同じ?) とか	
2	<p>就学前 Q22 選択肢⑥児童センター</p> <p>○桑名市内の児童センターの存在や場所を知らない人もいると思うので、どこにあるとか明記した方がよいと思う。また、他市の児童館を利用した人もいます。</p> <p>○児童館・児童センターが出てきて、違いがわからない。</p>	<p>(就学前 新Q24)</p> <p>■選択肢⑥に「(深谷・深谷北)」を追記しました。</p> <p>(就学前 新Q49、新Q53)</p> <p>■児童センターは、児童館の一形態なので、「児童館(児童センター)」の表記に統一します。</p>
3	<p>就学前 Q22 選択肢⑦⑧</p> <p>○子育てサロンと子育てサロンひだまりの違いがわからない。</p> <p>○子育てサロン事業を行っているところを具体的に書かないと、社協の事業や子育てサークル事業と勘違いするのではないのでしょうか。</p>	<p>(就学前 新Q24)</p> <p>■選択肢⑦に「(大山田・七和・城南公民館)」を、選択肢⑧に「(深谷保育所内)」を追記しました。</p>
4	<p>就学前 Q33 補足説明</p> <p>○放課後子ども教室の説明の結びに「・・・すべての小学生が利用できます。」とあるが、放課後子ども教室がない校区もあるので、「校区で開設している場合は」とかにした方がよいのではないのでしょうか。</p>	<p>(就学前 新Q35)</p> <p>■「すべての」の文言を削除しました。</p>
5	<p>小学生 Q19 選択肢9児童館</p> <p>○就学前用と同じであれば、「児童センター」が正しいのではないか。また、具体的な場所を記載しないとわからないかも。</p> <p>○「ぽかぽか」は児童館なのか？</p>	<p>(小学生 Q19)</p> <p>■表記を「児童館(児童センター)」に修正しました。なお、この設問では公共施設の一例として記載しているため、具体的な場所までは記載の必要はないと考えています。</p> <p>■「ぽかぽか」は、“生涯学習交流センター”および“子ども・子育て応援センター”機能を併せ持つ複合施設であり、児童館ではございません。本市の児童館(児童センター)は、深谷と深谷北の2か所のみです。</p>
6	<p>小学生 G全般(5・6頁)</p> <p>○放課後児童クラブと放課後子ども教室の違いがよくわからない人には間違いやすい。設問を分けてはどうですか。</p>	<p>■放課後の児童の居場所という視点でくりたいと考えます。なお、両事業については、桑名市の子育て支援事業の説明文</p>

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ（学童保育）についてお聞きします。 ・放課後子ども教室についてお聞きします。 	を同封します。（資料１－４参照）
7	<p>小学生 Q25</p> <p>○選択肢①：家庭教育の講演会などは学校やPTAも行っていると思うが、それらも含めるのか。</p> <p>○選択肢⑤：児童センターの場所を明記した方が良い。</p>	<p>（小学生 Q25）</p> <p>■家庭教育に関する学級・講座等の全般について現状やニーズをお聞きします。</p> <p>■選択肢5に「（深谷・深谷北）」を追記しました。</p>
8	<p>小学生 Q39</p> <p>○児童館と児童センターとの違いは？</p>	■桑名市の子育て支援事業の説明文を同封します。（資料１－４参照）
伊藤 直和委員		
9	<p>小学生 Q12</p> <p>○時刻の記載を“24時間制で”とお願いしているのですが、合わせてはいかがですか。</p>	<p>（小学生 Q12）</p> <p>■ご指摘のとおり修正しました。</p>
加藤 隆明委員		
10	<p>認定こども園記述全般</p> <p>○認定こども園に関する記述全部に対し説明不足</p>	■幼稚園、保育園、認定こども園の内容と桑名市の子育て支援事業の説明文を同封します。（資料１－４参照）
11	<p>該当か所 なし</p> <p>○家庭での子育ては何歳までしたいか？</p>	■（就学前 新Q48）新設します。
12	<p>該当か所 なし</p> <p>○私立、公立と選ぶ理由は？</p>	■今回の調査は、教育・保育に関する全般的なニーズを把握するためのものです。得られた結果も、計画に反映させることが難しいと考えられます。
13	<p>該当か所 なし</p> <p>○桑名市の財政状況を市民の皆さんはどう思いますか。</p>	■財政状況にかかわらず、教育・保育に関する全般的なニーズを把握したいと考えます。
14	<p>該当か所 なし</p> <p>○今後の経済状況から未来の子たちの負の</p>	■現時点における教育・保育に関する二一

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	財産を残しますか。	ズを把握したいと考えます。今後の市の財政等について考えるのは、市行政の責務であると考えます。
15	該当か所 なし ○保育園、幼稚園、認定こども園、託児所の区別は理解できているか。	■幼稚園、保育園、認定こども園の内容と桑名市の子育て支援事業の説明文を同封します。(資料1-4参照)
16	該当か所 なし ○桑名市の幼稚園再編計画は財政面から理解できるか?	■今回の会議は、教育・保育・地域の子育て支援や子育て環境など幅広く議論する会議であり、個別の就学前施設再編実施計画を改めて議論する会議ではないと整理しております。
17	該当か所 なし ○幼稚園再編計画は正しい施策計画と考えますか?	■同上
下間 賢了委員		
18	就学前 Q51 ○選択肢6「幼稚園と保育施設の機能を併せ持った認定こども園の設置」(線部分の削除)	(就学前 新Q53) ■施策について期待することをお聞きする設問なので、このままとさせていただきます。
19	就学前・小学生 新規 ○家庭での子育ては何歳まで	■(就学前 新Q48)新設します。
20	就学前・小学生 新規 ○私立、公立を選ぶ(選んだ)理由は	■今回の調査は、教育・保育に関する全般的なニーズを把握するためのものです。得られた結果も、計画に反映させることが難しいと考えられます。
21	就学前・小学生 新規 ○市の財政状況をどう思うか	■財政状況にかかわらず、教育・保育に関する全般的なニーズを把握したいと考えます。
22	就学前・小学生 ○保育園、幼稚園、認定こども園などの区別の理解	■幼稚園、保育園、認定こども園の内容と桑名市の子育て支援事業の説明文を同封します。(資料1-4参照)

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
23	就学前・小学生 ○幼稚園再編計画は（財政面、内容面など）正しい施策と思うか	■今回の会議は、教育・保育・地域の子育て支援や子育て環境など幅広く議論する会議であり、個別の就学前施設再編実施計画を改めて議論する会議ではないと整理しております。
津田 浩二委員		
24	就学前・小学生 新規 ○「こどもの育ちにとって、どのような環境が重要だと考えるか」の問いが必要。	■（就学前 新Q21、Q22）教育・保育の内容に期待することなどの設問を新設します。
25	就学前 新規 ○「こどもの育ちにとって、（ ）歳までは、施設に預けることなく、家庭で子育てをすることが良いと考えるか」の問いが必要。	■（就学前 新Q48）新設します。
26	就学前 Q35 ○1～4までが、「仕事をやめた」理由として、消極的な選択を挙げている。子どもとの時間を最優先にするため「仕事をやめた」などの積極的な選択理由が同じようであっても良いのではないか。	（就学前 新Q37） ■「継続的に働いていた」人の背景・理由を把握するための設問に変更します。
27	就学前 新規 ○「仕事をやめた」理由を問う質問があるのであれば、「子どもを施設等に預け、仕事をする」理由を問う質問も必要。自己実現のためなのか、経済的な理由によるものなのか、あるいはその他の事情によるものなのか。経済的理由にも、生活上やむを得ないものなのか、または生活水準を維持または向上させるためなのか。	■同上
28	就学前 新規 ○家庭での子育てを望みながらも、子どもを施設等に預け、仕事をする保護者に対し、どのような支援があれば、家庭での子育てが可能かを問う質問が必要。	■上記設問の回答等をクロス集計の分析項目にするなどしてニーズ把握を行います。
29	就学前 Q36／小学生 Q30	（就学前 新Q38／小学生 Q30）

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	○積極的な理由によって、家庭での子育てを選択した方に対して聞く必要のない質問。また「大変」ではなく「大切」とした方が、課題について前向きに考えることができるのではないか。	■「大変」ありきではなく、現状把握する形式に改めました。
30	就学前 Q37／小学生 Q31 ○家事の分担を含む家族のあり方は、それぞれの家族の価値観や状況によって、多様な形があって良い。「こうあるべき」を問う質問は、すべきでない。夫婦間の理解・協力が大切なことは、調査するまでもない。	■当該設問は、男女共同参画意識の浸透等を勧奨して削除しました。
31	就学前 Q46 ○子育てをする保護者を孤立させないことは大切である。しかしながら、この質問によって、「二人でいる時間が長いほど精神的負担が大きい」という結論を導き、子育てにおいて最も大切な保護者と子どもの時間が削られることはあってはならない。削除すべき。	■削除しました。
32	就学前 Q47／小学生 Q39 ○幼稚園は8・学校になるが、一般の方は判断が難しい。学校（幼稚園・小学校等）	(就学前 新Q49／小学生 Q39) ■ご指摘のとおり修正しました。
33	就学前 Q51 ○選択肢4・5・6は必要ない。回答者が考える「充実」の範囲がかなり大きい。また認定子ども園の理解が、イメージのみで十分に進んでいるとは言い難い。	(就学前 新Q53) ■選択肢4～7として、保育園と幼稚園の質的・量的な充実を掲げました。
中谷 直子委員		
34	就学前 Q34 ○Cで5. 6. に○をつけられた方以外の母親のみなさんにお聞きします。	(就学前 新Q36) ■「あて名のお子さんの「母親」は、」と修正しました。
35	就学前 Q36	(就学前 新Q38)

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	○…両立させていく上で難しいと感じることはありますか？ある場合それはどういうことがありますか？	■ご指摘のとおり修正しました。
36	就学前 Q37 ○どのようにすれば家事の負担が軽減されると思いますか？	■当該設問は、男女共同参画意識の浸透等を勘案して削除しました。
37	就学前 Q39-3 ○…なぜ利用ができなかったのですか？どのように対応されましたか	(就学前 新Q41-3) ■理由等は、選択肢から類推できるため。このままにさせていただきます。
38	就学前 Q45 ○子育てをする上で、特に不安に思っていることや悩んでいることはありますか？ある場合はどんなことですか？	(就学前 新Q47) ■ご指摘のとおり修正しました。
39	就学前 Q46 ○二人でいる時間を尋ね、どういうところにつながるのか今のところわかりません。	■削除しました。
40	小学生 Q10 ○お子さんは、ふだん朝食をとっていますか？とっている場合、どのような朝食が多いですか？ご飯 お味噌汁 パン 牛乳・ジュース シリアル等選択肢要	■ご提案は、子どもの食生活・食習慣について、深く掘り下げた設問と思われます。本市には「桑名市健康づくり計画」があり、その中に栄養・食生活の項を設けているため、そちらで対応していきます。
濱内 洋孝委員		
41	就学前・小学生 全項目 ○回答・記入欄の構成について、「その他」を選択した場合の記入欄（ ）の枠を広く記入しやすくした方がよい。	■ご提案のとおり、バランスに配慮しながら（ ）の枠を広げました。
42	就学前・小学生 共通 Bへ追加 ○あて名の子どもの発達障害の有無、社会的養護の必要性等の設問を設け、加配要因、支援員、特別学級の必要性のニーズを調査すべきではないか。	■ご指摘の点は、大変重要であると考えます。本市では平成26年度「桑名市障害者計画」の見直しを予定しているため、その中で把握することを検討します。

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
43	<p>就学前 Q17・Q19</p> <p>○公立、私立のニーズを掴むべく、選択肢の幼稚園、保育園の施設を公私を別にする必要があるのでないか。</p>	<p>■今回の調査は、教育・保育に関する全般的なニーズを把握するためのものです。得られた結果も、計画に反映させることが難しいと考えられます。</p>
44	<p>就学前 Q21-3</p> <p>○回答欄に「幼稚園、保育所等に通園している在園児のため利用したくてもできない」の追記。</p> <p>※「桑名市の施設ではほぼ、未就園児の利用に限られている」利用したくてもできない人を把握するため。</p>	<p>(就学前 新Q23-3)</p> <p>■ご提案いただいた選択肢は、「7. 幼稚園・保育園の在園児のため、利用したくてもできない」として追記しました。</p>
45	<p>就学前 Q25／小学生 Q26</p> <p>○回答4、桑名市応急診療所などの「桑名市内」の救急医療機関に連れて行った。また、『「桑名市外」の隣接市町村の救急医療機関に連れて行った』を選択肢に追記して貰いたい</p>	<p>(就学前 新Q27／小学生 Q26)</p> <p>■ご指摘のとおり、選択肢4に「市内の」を加え、新たに「5. 市外の～」を加えました。</p>
46	<p>就学前 Q30</p> <p>○回答欄の「○」は一つのみなのか、あてはまるもの全てなのかがわからない。</p>	<p>(就学前 新Q32)</p> <p>■ご指摘のとおり、設問文末に（○はいくつでも）を追記しました。複数回答を想定しています。</p>
47	<p>就学前 Q34</p> <p>○母親のみに聞いているが、回答者が母親以外でない場合にはどうするのか。</p> <p>補足として：調査票の主たる回答者が母親でない場合にも答えやすい設問内容にすべきではないか。</p> <p>例→あて名のお子さんの「母親」は出産前後（前後それぞれ1年以内）に、仕事をどうされましたか。（○は1つだけ）</p> <p>→父親、祖父母も回答できるのでは？</p>	<p>(就学前 新Q36)</p> <p>■ご指摘のとおり、「あて名のお子さんの「母親」は」と修正しました。</p>
48	<p>就学前 Q36・Q37／小学生 Q30・Q31</p> <p>○設問および回答欄の再検討</p> <p>・すべての人への設問であり、専業主婦・主夫が答えている場合、働く親が回答する場合、男性女性とでも得られる結果が全く違うものになってしまう。</p>	<p>(就学前 新Q38・Q39／小学生 Q30・Q31)</p> <p>■クロス集計により、男女別、世帯別、就労状況別など属性別に回答を分析します。</p>

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	<p>「K」の項目自体を男女共同参画の視点で設けた市独自の設問とするなら、もう少し検討した方がよい。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q36, Q37男性、女性それぞれに質問する設問としてはどうか？ 2→家族の理解・協力が得られない 3→職場の理解・協力が得られない 4→残業、休日出勤等で労働時間が長く子どもと接する時間が少ない。 (本人、配偶者どちらの場合も) 5→仕事、子育て以外にも家族の介護等を行う必要がある 	<p>■旧Q37については、男女共同参画意識の浸透等を勘案して削除しました。なお、男女共同参画にかかる具体的な施策等については、「桑名市男女共同参画プラン」の中で言及していきます。</p>
49	<p>就学前 Q39-3</p> <p>○設問の回答文の意味が難解すぎる。特に、2の事業所⇒勤務先と読み替えるなど工夫が必用である。</p> <p>6、その他()を設ける。</p>	<p>(就学前 Q41-3)</p> <p>■ご提案のとおり、「事業所」を「勤務先」に修正しました。併せて、「6. その他()」も追記しました。</p>
50	<p>就学前 Q41~Q43</p> <p>○その他()の回答枠が狭い。その他は最終回答枠にして、ページの横幅一杯を確保して記入しやすくする。</p>	<p>(就学前 新Q43~Q45)</p> <p>■新Q41~Q43のその他()の枠はご指摘のとおりできる限り拡張しました。</p>
51	<p>就学前 N全般</p> <p>○とても良い設問である。本来なら父親、母親の両方がともが回答できるような設問にしてはどうか。</p>	<p>■クロス集計により、男女別、世帯別、就労状況別など属性別に回答を分析します。</p>
52	<p>就学前 Q46</p> <p>○この設問内容では、回答者一人の時間しか見えてこない。主たる回答者以外の家族と子どもの時間を調査してもよいのではないか。(いかにも質問の意図が主に母親との時間を想定しているのではないか?)</p> <p>あて名のお子さんと、同居の家族がすごす一緒に過ごす時間はどれくらいですか?</p> <ul style="list-style-type: none"> 1、母親：一日のうち「」時間くらい 2、父親：↑同文 3、祖父母：↑同文 	<p>■削除しました。子どもと父母がともに過ごす時間等については、それぞれの就労状況等をからめ分析していきます。</p>

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	4、その他の保護者：↑同文 家族全員で過ごす時間も設問に入れる。	
53	就学前 Q47／小学生 Q39 ○回答欄の全てが重要であり、当たり前すぎている。ニーズを調査するのであれば、回答欄を数を減らして順位を振る（集計が大変）工夫が必用と思われ、委員で議論した方がよいのではないか。本当に必要な保護者のニーズ部分がいくつでも○を付けられることにより明確化しない懸念がある。	(就学前 新Q49／小学生 Q39) ■確かにご指摘のとおりのところもありますが、過去の調査で有効であった設問の継続であり、経年変化から課題等が浮かび上がるように考えて設問としたものです。
54	就学前 Q47／小学生 Q39 ○回答欄に「地域医療の充実」を追記してはどうか。	(就学前 新Q49／小学生 Q39) ■ご指摘のとおり、選択肢6として追加しました。
55	就学前 Q48／小学生 Q40 ○「地域」に何を望みますか。の「地域」の定義があいまいで市民には分かりにくい。地域の具体例はなにか？	(就学前 新Q50／小学生 Q40) ■隣近所の助け合いはもとより、ボランティアなどインフォーマルサービスへの期待等をお聞きしたいので、記入者の直感的なイメージで答えていただきたいと考えます。
	松岡 初文委員	
56	就学前 Q25／小学生 Q26 ○「くわな健康・医療相談ダイヤル24」を追加してほしい。(＃8000は平成25年度末で小児科医会と県の契約が切れます)	(就学前 新Q27／小学生 Q26) ■ご指摘のとおり、「くわな健康・医療相談ダイヤル24」を選択肢に加えます。
	水谷 秀史委員	
57	就学前・小学生 新規 ○桑名の子どもたちは今後、増えるか、減ると考えるか	■計画への反映が難しいので、今回は控えさせていただきます。
58	就学前・小学生 新規 ○自分自身、親の愛情をたくさん受けて育ったと思うか	■今後、開催を予定しているワークショップのテーマの一つとして活用させていただくことを検討します。

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
59	就学前・小学生 新規 ○市は、保育施設を拡充することにより、0～2歳を家庭で育てられる環境づくりの充実に努めたほうが将来の為によいと考える	■平日の教育・保育事業のニーズの分析により代替させていただきます。
60	就学前 新規 ○（何）歳までは、家庭で育てたいと思っている（選択の項目を作る）か	■（就学前 新Q48）新設します。
61	就学前 新規 ○育児休暇を3歳までとするのがふさわしいと考えるか。	■同上
62	就学前 新規 ○（何）歳までは、所得の一部でも給与の保証が必要と考えている（選択枝を挙げる）か	■計画への反映が難しいので、今回は控えさせていただきます。
63	就学前 新規 ○幼児の時に何を教えたらいいのか、知ることのできる講座や教室がネット経由などで必要と考えるか。	■（就学前 新Q21、Q22）教育・保育の内容に期待することなどの設問を新設します。
64	就学前・小学生 新規 ○子育ての為に働けなくなることはある程度仕方ないと考えるか	■（就学前 新Q37）「継続的に働いていた」人の背景・理由を把握するための設問に設定します。
65	就学前・小学生 新規 ○母親が働くと出生率が上がると考えている	■今後、開催を予定しているワークショップのテーマの一つとして活用させていただくことを検討します。
66	就学前・小学生・子育てを終えた世代 新規 ○産まれて間もなく施設に預けることに罪悪感を覚える（覚えた）か。	■同上
67	就学前・小学生・子育てを終えた世代 新規 ○上記、何歳なら可能と考えるか。	■同上
68	就学前・小学生 新規	

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	○子どもを預けて働ける状況か、働かなくても子育てができる状況（児童手当の増強や市による所得補償など）か、いずれを選ぶのが、子どもためと思うか？	■（就学前 新Q37）「継続的に働いていた」人の背景・理由を把握するための設問に設定します。
69	就学前・小学生 新規 ○働きたいとするのは、金銭的な理由か、それとも、働くことの意義のためか？	■同上
70	就学前・小学生 新規 ○幼稚園や学校を終えて後、時間的な都合が解消されても、預かって欲しいとするか、否か。	■同上
71	就学前・小学校 新規 ○小学校等の子どもの教育は学校などの教育施設でのみすべきと考える、あるいは家庭でもすべきと考える。	■今後、開催を予定しているワークショップのテーマの一つとして活用させていただくことを検討します。
72	就学前 新規 ○幼児に「教育」は必要ないと思うか否か。	■（就学前 新Q21、Q22）教育・保育の内容に期待することなどの設問を新設します。
73	就学前 Q51 ○6.（認定こども園にかかる質問をしているが、市民の認定こども園に対する定義の理解度はいかに？）	■幼稚園、保育園、認定こども園の内容と桑名市の子育て支援事業の説明文を同封します。（資料1-4参照）
74	就学前・小学生 新規 ○子どもが0～2歳のころ、あるいは、3～4歳のころ、こんなサービスがあればよりスムーズな教育が出来た、と思うことは？	■（就学前 新Q21、Q22）教育・保育の内容に期待することなどの設問を新設します。また、ワークショップのテーマの一つとして活用させていただくことを検討します。
75	保育園の現場に向けて ○子どもの育ちを見ていて、保護者に要求したいこと	■幼稚園、保育園の現場のニーズ等を把握するため、幼稚園教諭、保育士へのヒアリング調査を予定しております。聞き取り事項として活用させていただくことを検討します。
76	幼稚園の現場に向けて	

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	○子どもの育ちを見ていて、保護者に要求したいこと	■同上
77	保育園・幼稚園に向けて ○園に任せるのではなく、家庭でして欲しいこと	■同上
78	保育園・幼稚園に向けて ○親の意識が低いと感じる時は？	■同上
79	子育てを終えた世代に対して ○このように育てたら良かった、悪かったの例	■今後、開催を予定しているワークショップのテーマの一つとして活用させていただくことを検討します。
80	子育てを終えた世代に対して ○若い母親に働いてほしいと思うか、否か	■同上
81	就学前児童・小学生、保育園・幼稚園の現場、子育てを終えた世代 ○住みやすい社会と過保護な社会の違いを認識するための設問	■同上
82	就学前・小学生 新規 ○幼稚園、保育園、認定こども園の違いがわかる	■幼稚園、保育園、認定こども園の内容と桑名市の子育て支援事業の説明文を同封します。(資料1-4参照)
83	就学前・小学生 新規 ○子育ての責任は社会(国など)が責任を持って行ってくれると考える。	■今後、開催を予定しているワークショップのテーマの一つとして活用させていただくことを検討します。
84	就学前・小学生 新規 ○世の「子育て支援」が「就労支援」となっていくことは、ふさわしい、ふさわしくない。あるいは よい、わるい、わからない	■同上
85	就学前・小学生 新規 ○幼稚園に期待する仕事とは？	■(就学前 新Q21、Q22)教育・保育の内容に期待することなどの設問を新設します。
86	就学前・小学生 新規	

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
	○保育園に期待する仕事とは	■同上
87	保育園・幼稚園の現場 ○保育園等で一日10時間過ごす子どもの育ちは、家庭で育つ子どもの育ちとは異なる、と考える	■幼稚園教諭、保育士へのヒアリング調査を予定しております。聞き取り事項として活用させていただくことを検討します。
88	保育園・幼稚園の現場 ○新たに発生する要望や基準の為に、十分な手当てが支給されている	■幼稚園教諭、保育士へのヒアリング調査を予定しております。聞き取り事項として活用させていただくことを検討します。
89	就学前・小学生 新規 ○保育園等で一日10時間過ごす子どもの育ちは、家庭で育つ子どもの育ちとは異なる、と考える	■今後、開催を予定しているワークショップのテーマの一つとして活用させていただくことを検討します。
90	保育園・幼稚園の現場 ○幼稚園、保育園の現場で「限界」と感じる教育、保育は？	■幼稚園教諭、保育士へのヒアリング調査を予定しております。聞き取り事項として活用させていただくことを検討します。
91	保育園・幼稚園の現場 ○現在の「評価、あるいは第三者評価」において、より子どもの為の教育、保育現場を作り出すことに成功していると思える	■幼稚園教諭、保育士へのヒアリング調査を予定しております。聞き取り事項として活用させていただくことを検討します。
92	就学前・小学生 新規 ○運動会で順位をつけるのが教育的、つけないのが教育的と考える	■計画への反映が難しいので、今回は控えさせていただきます。
93	就学前 新規 ○認可施設の利用が困難か不可能なら、無認可施設を利用することも考えられる	■平日の教育・保育事業のニーズの分析に含まれると考えます。
94	就学前 新規 ○安定した、愛情ある0、1、2歳の保育の結果として3、4、5歳の保育が成立していると考えられる	■今後、開催を予定しているワークショップのテーマの一つとして活用させていただくことを検討します。

番号	委員 ご意見 該当か所 ○ご提案内容	事務局 考え方
95	就学前・小学生 新規 ○桑名における市制で、教育や保育に十分な予算がとられ、実行されていると感じている（桑名市は子どもを大事にしていると感じている）	■同上
96	就学前・小学生 新規 ○子育ては将来の国を支える人材の育成であると認識しているか	■同上
渡部 美紀子委員		
97	就学前 Q19・Q22・Q31・Q36 ○ <u>すべての方</u> → <u>すべての方</u>	■ _____ → _____ に変更します。
98	就学前 Q34 ○ <u>母親のみなさん</u> すべて→ <u>母親のみなさん</u> <u>すべて</u>	■（就学前 新Q36）設問変更
99	就学前 Q27・Q33・Q40 ○「ファミリーサポートセンター」に『(地域住民による子どもの預かり事業)』の説明文を入れる	■利用している人の状況把握なので、このままにさせていただきます。
100	小学生 Q25 ○「③教育相談センター・教育相談室」は、「教育研究所・教育相談」ではないでしょうか。 (間違っていたらすみません)	(小学生 Q25) ■ご指摘のとおり、「教育研究所・教育相談」に修正させていただきます。
101	小学生 Q28 ○「ファミリーサポートセンター」に『(地域住民による子どもの預かり事業)』の説明文を入れる	(小学生 Q28) ■利用している人の状況把握なので、このままにさせていただきます。
102	小学生 Q38 ○選択肢4の「育児」を「子育て」に変更。「育児」は乳幼児期の子育てをさすのでは	(小学生 Q38) ■ご指摘のとおり、「子育て」に修正させていただきます。